

えひめ 地域づくり協働体通信

今号では、新居浜市大島で白いも（七福芋）を生産している七福芋本舗の秋月純一さん取材しました。この白いもは新居浜市大島でしか採れないといわれ、生産量も限られていることから「幻の芋」といわれています。白味を帯びた上品な見た目、高い糖度と粘り気の特徴である白いもは、地元スーパーや通販で購入できるほか、焼酎やお菓子といった加工品としても人気です。人員と生産量の確保が難しい中、地域を巻き込んだ事業活動により、白いも生産の安定化を図っています。本紙が皆さまの地域で活動される上で、ご参考になれば幸いです。

新居浜市大島

キーワード：白いも（七福芋）、ブランド化、流通、特産品の開発

★新居浜市大島について

新居浜市で唯一の離島である大島（新居大島）は、燧灘（ひうちなだ）の沖合約1.5kmに浮かぶ周囲約8km、人口およそ180人（令和2年3月現在）の小さな島です。約1時間に1往復運航されている市営渡海線で、およそ15分で行くことができます。島内に公共交通機関はありませんが、島内を一周できる道路があり、サイクリングコースとしても人気です。中世に活躍した伊予水軍、村上義弘生誕の地と言われており、伊予水軍にまつわる様々な遺跡が残っています。新年には一年間の無病息災を願う「とうどおくり」が行われ、見物客も多く訪れます。大島の特産品は白いもの他、みかんや野菜などがあります。



新居大島

新居浜市大島
(新居大島)

★「白いも（七福芋）」について

新居大島が島を挙げて取り組んでいる白いも（七福芋）栽培。白味を帯びた皮と高い糖度が特徴で、その糖度は約15度、メロン並といわれています。濃厚でねっとりとした触感も特徴で、焼き芋にすると甘みが増して、更においしくなります。風向き、土壌の質などにより、新居大島でしかこの甘さを含有した白いもは育たないといわれています。さらに、新居大島での年間生産量は6トン程と限られていることから、「幻の芋」とも呼ばれています。

また、白いもを使った加工品の中でも審査基準をクリアした商品を「七福芋ブランド」として売り出しています。



白いも（七福芋）

①「七福芋本舗」について



平成16年に「大島白いも特区」の認定を受け、農業生産者以外の法人の農業経営参入が認められました。このことにより大島の島づくり団体「NPO法人GOODWILL」が主体となり、農家から市を通して畑を借り、白いもを生産する体制ができあがりしました。七福芋本舗は元々白いもやその加工品を販売する組織でしたが、近年はGOODWILLから畑を借り受け、白いも栽培にも取り組んでいます。

②白いも栽培と収穫祭について



取材の際に、白いも畑を見せてもらいました。新居大島に点在している白いも畑は普段は島民の方と七福芋本舗の秋月さんで管理しているそうです。人手が必要な植え込みや収穫の時は、新居浜市内の七福芋本舗の関連会社の方たちも巻き込んで作業をしているとのこと。毎年11月に行われている「収穫祭」では、親子連れなど島外からも100人ほどが集まり、地域の活性化にもつながっています。

③白いもを使った商品「七福芋ブランド」について

白いもを多くの人に味わってもらうため、白いもを使用したお菓子やパンといった加工品が数多くあります。七福芋と白餡を合わせた高級和菓子「にいほまそだち」、おやつにピッタリの豆菓子「七福豆」、七福芋焼酎の「あんぶん」などがあり、特にあんぶんは、クセが少なくフルーティーな味わいに仕上がっています。他にもワッフルやソフトクリーム、クッキーなどがあり、新居浜市内のカフェ、スーパーなどの店舗で白いもを味わうことができます。これらの加工品は、白いもを全国に情報発信し、知名度の向上や物産及び地域全体の向上などを資する目的で設立された「にいほま大島七福芋ブランド推進協議会」によって審査を行い、認定されたものだけを「七福芋ブランド」として販売しています。



④今後の取組み、課題について

幻の芋とも呼ばれる白いもですが、大島で栽培されたものしかその甘さが出せない理由については、各研究機関で分析するも不明との結果のようです。今後は、栽培技術の継承や安定した生産量の確保が課題となっています。現在、新居大島では地域おこし協力隊の募集もしており、それらの課題解決のほか、イノシシ等の獣害対策も担っていただく予定にしています。また、年間を通して白いもを味わってもらうため、「冷凍焼き芋」の技術開発にも取り組んでいく予定です。



★取材後記

新居大島では高齢化が進み、病院通いで畑の管理が難しくなる農家も年々多くなっているようです。限られた人員の中で、大島の農家や秋月さんだけでなく新居浜市内の方も巻き込んだ活動により、生産量を安定化させ、知名度の向上にもつながると思いました。今回、本紙でご紹介しました「七福芋本舗」の地域活性化に向けたこれらの取組みが、愛媛県内各地域で活動されている皆さまのご参考になれば幸いです。

この情報誌の関係サイト/「えひめ地域づくり協働体」 Facebook

地域の活動情報の連絡先/この情報紙に関するお問合せ先

愛媛県企画振興部地域政策課

TEL: 089-912-2236 E-mail: chiikiseisak@pref.ehime.lg.jp

(公財) えひめ地域政策研究センター

TEL: 089-926-2200 E-mail: info@ecpr.or.jp